

鹿洲全集

戊辰仲春
重印 壹拾伍



東征集卷三

漳浦藍鼎元玉霖稿

天長王者輔近顏評

復制軍論築城書

築城鑿濠臺中第一急務當星速舉行者也承諭但

住官兵不用議及民居乃因時制宜節用愛人至意

宜○包○氏○居○一○句○已○明

第○思○設○兵○原○以○衛○民○而○文○武○衙○署○倉○庫○監○房○俱○關○重

倉○庫○關

大○似○未○可○但○護○兵○丁○而○置○其○餘○于○度○外○也○盜○賊○小○人

耽耽之視惟在帑金而盜房關係同夥因繫則謀劫監越獄情

所必至倉卒之際以官為主官無恙則法尚存未敢衙署關係三層一氣寫下文武氣礮礮

遽掠民居而民亦無驚擾潰散之患此定理也官無

大小失一則羣情慌亂而賊志張揚兵威挫衄故謀

事必出萬全雖不能多及民居亦當合文武衙署倉

庫監房包裹在內乃可戰可守可以言城若謂兵既

減少城大難于照看則內地各府縣戍守之兵或千

或百皆有包羅衙署民居之城况兵既二千亦不為原不憂城大

少有急則住眷良民皆可登陴協守似無照管不周亦不憂難于照管

不憂兵少

之弊。但土城木城。職等再四籌咨。未見其可。臺地徹底粉沙。築之不堅。膠之不實。欲依憲諭。以挖濠之土。不灰不磚。而成五尺厚二丈高之牆。萬萬不能牢固。即使勉強。堆築風雨一至。立見崩墮。將徒勞而罔功。此土寨之不可也。深山伐木。遠運以來。所費不貲。承諭內外。兩重植立。以沙土實其中。復用厚板蓋頂。則必深豎密布。所需之木。何啻山積。雖暫時亦堪守禦。而歷久終歸朽蠹。蓋木性乍乾乍濕。逾年卽壞。旣已植築爲城。半埋沙土。驕陽曝則膚理裂開。雨露濡則

如○上○讀○異○書○

透○關○

腐○枯○立○見○其○勞○民○傷○財○不○下○灰○磚○而○復○不○能○以○經○久○
 則○木○寨○亦○未○善○也○沙○灰○土○三○合○築○牆○之○寨○地○則○可○行○
 灰○可○載○牡○蠣○之○殼○築○窰○自○燒○而○沙○土○亦○須○運○載○蓋○必○
 粗○沙○如○豆○米○顆○粒○及○山○間○實○土○方○可○和○灰○非○此○處○細○
地○制○宜○
 粉○沙○泥○可○用○則○工○本○浩○大○與○砌○磚○為○城○相○去○無○幾○職○
到○底○不○肯○苟○且○
 等○愚○見○以○為○不○為○則○已○為○則○必○要○于○固○土○木○即○可○權○
 宜○錢○糧○總○無○出○辨○似○不○如○明○題○請○

旨○就○臺○地○特○開○捐○輸○城○工○事○例○于○萬○壽○亭○寬○曠○處○所○
 用○灰○砌○磚○築○一○不○大○不○小○之○城○將○文○武○衙○署○倉○庫○監○

房俱包在內。深鑿濠塹，密布椿簽，方爲長久。至計鳳山諸羅營縣一例。做此行之，不知執事以爲何如。一時之勞，萬世之利也。職等凡庸識淺，以爲此事關係臺疆安危，卽係國家東南沿海治亂，似不可苟且塗飾。惟執事留意焉。

爲地方創立萬世之業，自不容苟且塗飾說得明白。透快具見公忠，爲國剗犀斷蛟手段。

國盛則具原公忍欲自國博取博德

祖餘賦文隨正離世之業自不容商且

誠辭楚事臣意再不惜大與物時為

事歸安成將給國東南胡胡胡胡

和文榮德世之排故離學以風世意以念出專關給

山書顯特德一何如由書之深亦博更以然何成于

去再回書以不學不進商帝海於大以海入至信點

與制軍再論築城書

錢○謂○前○說

於萬壽亭曠地築一小城建文武衙署倉庫於中尚
是畏難苟安之見因憲札內有兵民雜處難於稽查
等語故云然耳夫設兵本以衛民而兵在城內民在
城外彼蚩蚩者不知居重馭輕之意謂出力築城衛
兵而置室家婦子於外以當蹂躪夜半賊來呼城門
而求救無及矣論理宜包羅民居爲是北從總兵大
營後圍起環臺灣縣署而東跨溝爲水門逐包東嶽
廟臺灣縣學鳳山公館南包郡庠防廳臺廈道公署

西包天后宮番子樓而北環左營遊擊營署計一週

不過十里惟截出中營萬壽亭春牛埔土塹埕渡頭

在外其餘文武衙署學宮城隍倉庫牢獄包括靡遺

尚未及興化漳州郡城之大其形勢則北跨高坡臨

形勢亦要緊

海東北當北路要衝東南控扼南中二路南瞰鬼子

山土塹埕西俯海岸鯤身安平鹿耳為捍門方得建

郡形勝其三面皆無民居止截斷土塹埕一帶須清

道遠國體之害

民屋但為地方大利亦不得顧惜小害計算應毀房

舍若干將節省營建衙署費用量直周給所損少而

所全多國家大事惟斷乃成幸卽具題請

旨開輸磚石城工事例諸羅鳳山皆可刻日行之不

筆有工將小儒望而咋舌

然終是道旁築舍未見巧婦能爲無米之炊權宜而

用土木偷安止在目前勞民傷財不能經久若止防

衛官兵俾蚩蚩者心寒而齒冷非經國安邊之道也

申說臺郡關係正見所全者多

統計字內全局則臺灣爲海外彈丸黑子似在無足

重輕之數然沃野千里糧糈足食舟楫之利通天下

萬一爲盜賊所有或荷蘭日本所據則沿海六七省

皆不得安枕而卧關係東南半壁治亂非淺鮮也鄙

與臺灣道府論殺賊書

北路餘孽剽掠鹽水港豎旗六加甸恣其兇頑日無

王章可恨極矣已經擒獲楊君林君李明等輩擬干

明日會訊分別斬馘茲聞尊議欲按律成招押解省

城聽制撫審題正法此常理也但某愚見竊有欲參

探○驪○得○珠○五○通○達○國○體○之○言○

末議者安靖地方原不必拘牽文法况在軍中無人

人審解之例所謂得情哀矜施之良民則為德施之

一○不○得○不○殺○

叛亂則為縱而况甫平思亂既赦復叛此曹尚可活

哉今解入內地不能不扳仇復怨牽累無辜恐民間

人人自危且上下審駁奏報往返動隔經年雖彼時

萬刃碎磔民已忘記不知為何人何事矣日前冤憤

不伸容嗟詛說此聲曷可聞也海外反側地非樹威

不足彈壓奸徒無所畏憚將何以為定亂之資詎可

以仁慈之治治之吾于就撫者加之恩力擒者棄諸

市情法分明任其自擇庶可淨盡根株耳旦日會審

將梟示衆定人心而固疆圉有罪某自當之軍中義

得專殺無預諸君事也某非立意嗜殺無仁人好生

之心正惟好生不得不以殺止殺亂賊不殺害及善

○民○情○實○是○如○此○

○着○眼○在○此○所○以○不○

○為○婦○人○之○仁○

○亦○是○正○理○

○有○擔○當○

良。刑。法。將。安。所。用。而。亂。賊。尚。不。可。殺。則。又。何。賊。不。可。
家。明。自。今。人。無。可。置。
為。將。刑。法。亦。不。勝。其。用。鄙。見。如。此。未。知。當。否。同。舟。共。
濟。勿。吝。相。商。某。白。

迅。雷。嚴。霜。筆。筆。斬。截。却。有。和。風。慶。雲。之。氣。行。乎。其。
中。以。所。言。皆。大。公。至。正。定。亂。保。邦。之。要。道。非。一。味。
肅。殺。者。比。也。然。小。儒。望。之。已。舌。撓。不。能。收。矣。

山。乃。迤。歷。民。已。有。說。不。無。異。同。之。異。同。也。
 不。特。各。國。地。說。此。聲。為。可。聞。也。海。外。及。側。地。亦。有。此。聲。
 小。廉。錄。首。出。也。然。亦。謂。之。曰。曰。苦。甜。不。始。於。矣。可。
 中。以。改。言。皆。大。公。全。至。五。字。為。韻。對。律。之。要。直。非。一。舉。
 此。聲。氣。韻。聲。筆。筆。博。博。時。存。味。風。韻。聲。之。餘。亦。其。
 實。也。各。附。商。其。白。而。謂。之。曰。曰。苦。甜。不。始。於。矣。可。
 為。辨。既。去。亦。不。溯。其。源。流。見。於。出。未。以。音。否。同。其。共。
 身。既。去。辨。安。復。訊。而。廣。規。尚。不。可。疑。以。又。何。規。不。可。

答道府論陳福壽入山書

承惠教以杜君英實為戎首。此時尚匿山中。傾側靡常。不宜輕遣陳福壽往與相見。福壽罪大惡極。為

國家不赦之人。已經奏報就撫。萬一復偕君英逃去。

則身名隨之。具見足下愛我之深。甚為感謝。但某亦

嘗思之。福壽不往。君英不來。一片疑團。待此以決。我

輩至誠待人。奈何使人疑之。料福壽已無去志。即使

君英搖唇鼓舌。無改於窮蹙顛連之狀。安能使福壽

舍安而就危。舍生而就死。此必不得之數也。况君英

欲出如見勝野自是實情彼當倡亂之初聲勢猖獗更甚于朱

一貴比及陷郡欲與一貴爭王迨後吞併相攻敗走

虎尾溪其衆尚四五萬王師入郡三日彼尚有八

千人屯踞猫兒干如此時勢無能為是以今亡命至此晝伏夜奔八千子弟

俱歸何處誰脈視之即縱陳福壽與俱入山無衣無食能再集

八千人否說到此處雖驅之不作跡矣即使招至數萬亦不過如曩時君英終有

今日則亦何益之有君英此時如夢初醒斷斷不復

出此也彼在山中奮飛無路聞江國論陳福壽等美

衣豐食優游自在早已心動欲出但恐為人所欺竿

首市曹不過欲見福壽唯見心一問誠否實非敢有他念是小小心周

以福壽雖病某亦令載牛車強遣之去又未嘗不為

過慮密諭施恩陳祥當機相度或有他變則揮刀先

斬福壽徐割其首級以報亦可以伸朝廷之法然

竊料君英必無異志明實定不差日午後當來請移大駕到此

間會同質訊可也

窮寇乞命自無他虞雖道理時勢具在眼前却無

人敢如此決斷以陳福壽關繫匪輕萬一有失身

名隨之敢或為姑試哉福壽一往君英便來果然

不出所料固由其識之明見之定亦公忠為

國之心不可及也

...命自無... 與... 並... 和... 樂... 具... 主... 躬... 前... 味... 無...

...同... 變... 精... 百... 也... 今... 亡... 命... 重... 此... 豈... 快... 在... 身... 公... 千... 年... 萬... 歲... 無... 疆... 域... 不... 可... 侵... 侮... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

...吾... 英... 氣... 無... 異... 志... 則... 非... 予... 躬... 當... 泰... 前... 雖... 大... 難... 何... 難... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

...其... 首... 好... 效... 請... 衣... 下... 必... 幹... 其... 時... 或... 之... 起... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

...密... 箭... 疏... 恩... 刺... 拜... 官... 謝... 賜... 始... 亦... 此... 變... 願... 對... 不... 後... 也... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

...其... 本... 公... 處... 事... 事... 則... 盡... 心... 矣... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

...其... 會... 不... 盡... 於... 泉... 誠... 壽... 一... 問... 猶... 否... 實... 非... 端... 亦... 此... 念... 矣... 夫... 天... 下... 之... 事... 無... 不... 有... 其... 理... 也... 故... 聖... 人... 之... 治... 國... 必... 先... 正... 其... 心... 也... 心... 正... 則... 身... 正... 身... 正... 則... 家... 正... 家... 正... 則... 國... 正... 國... 正... 則... 天下... 歸... 之... 矣... 夫... 公... 忠... 之... 心... 固... 已... 見... 於... 前... 矣... 故... 其... 出... 所... 料... 固... 不... 足... 為... 奇... 也... 然... 其... 識... 之... 明... 見... 之... 定... 亦... 公... 忠... 為... 國... 之... 心... 不... 可... 及... 也...

覆制軍臺疆經理書

十月既望。接到憲檄。內開臺疆經理事宜八條。翼日

又奉諭札。再加四條。具見未雨綢繆。為臺地蒼生謀

善後之策。職等自當遵命。次第舉行。亦有愚昧無知。

胸中未能悉達。不得不略屬僚奉上之文。而講師生

質。疑問難之誼。伏惟憲臺少加垂察。臺灣海外天險

治亂安危關係。國家東南甚鉅。其地高山百重。平

原萬頃。舟楫往來。四通八達。外則日本琉球。呂宋噶

囉吧。暹羅安南。西洋荷蘭諸番。一葦可杭。內則福建

○勢○關○係○不○輕○

○統○論○全○臺○形○

○婉○執○

廣東浙江江南山東遼陽不啻同室而居比鄰而處
門戶相通曾無藩籬之限非若尋常島嶼郡邑介在
可有可無間值茲寇亂風災之後民生凋瘵大異本
來富庶面目然風俗尚多澆惡奸宄未盡革心網密
名○言○篤○論○安○臺○秘○鑰○盡○在○乎○此
則傷網疎則犯治安之政宜嚴而不宜寬將安將治
之民宜靜而不宜動伏讀憲諭羅漢門黃殿庄朱一
貴起事之所應將房屋盡行燒毀人民盡行驅逐不
許往來耕種阿猴林山徑四達大木叢茂寬長三四
十里抽藤鋸板燒炭砍柴耕種之人甚多亦應盡數

撤回篷厰盡行燒毀。檳榔林爲村君英起子之處。郎
嬌爲極邊藏奸之所。房屋人民皆當燒毀驅逐。不許
再種田園。砍柴來往以上四條防患拔根。至周至決。
職等再四思維一人謀逆九族皆誅。亂賊所居之地。
雖墟其里可也。惟是起賊非止數處。數處人民不下
數百家。則亦微有可慮者。人情安土重遷。既有田疇
廬舍。室家婦子環聚耕鑿。一旦驅逐搬移。不能遍給
以資生之藉。則無屋可住。無田可耕。失業流離。必爲
盜賊。一可慮也。其地旣廣且饒。宜田宜宅。可以容民。

○巽○上○言○善○入○

畜衆而置之空虛無人鎮壓則是棄爲賊巢使奸宄
便于出沒二可慮也前此臺地何人非賊國公將軍
而外僞鎮不止千餘今誅之不可勝誅俱仍安居樂
業而獨于附近賊里之人田宅盡傾驅村衆而流離
之隣賊之罪重于作賊三可慮也臺寇雖起山間在
郡十居其九若欲因賊棄地則府治先不可言况郎
矯並無起賊雖處極邊廣饒十倍于羅漢現在耕鑿
數百人番黎相安已成樂土今無故欲蕩其居盡絕
人跡往來則官兵斷不肯履險涉遠而巡人百餘里

此更可畏

無人之地。脫有匪類。聚眾出沒。更無他人可以報信。

四可慮也。鋸板抽藤。貧民衣食所係。兼以採取木料。

修理戰船。爲軍務所必需。而砍柴燒炭。尤人生日用。

所不可少。暫時清山。則可若欲求求禁絕。則流離失。

業之眾。又將不下千百家。勢必違悞船工。而全臺且。

有不火食之患。五可慮也。疆土旣開。有日闢無日蹙。

臺地。宋元以前。並無人知。至明中葉。太監王三保舟。

下西洋。遭風至此。始知有此一地。未幾而海寇林道。

乾據之。顏思齊。鄭芝龍。與倭據之。荷蘭據之。鄭成功。

又據之。國家初設郡縣管轄不過百餘里。距今未

四十年而開墾流移之衆延袤二千餘里。糖穀之利

甲天下。過此再四五十年。連內山山後野番不到之

境皆將為良田美宅萬萬不可遏抑。今乃欲令現成

不○能○行

村社廢為坵墟。厲禁不能六可慮也。曩者諸羅令周

鍾瑄有清革流民以大甲溪為界之請。鳳山令宋永

清有議棄郎嬌之詳。今北至淡水雞籠南盡砂馬磯

頭皆欣然樂郊爭趨。若鶩雖欲限之惡得而限之。職

等愚見以為人無良匪教化則馴地無美惡。經理則

○說○乾○輔○坤○曰○手○聖○人○無○以○易○也

善莫如添兵設防。廣聽開墾。地利盡。人力齊。鷄鳴狗吠。相聞而徹乎山中。雖有盜賊。將無遁逃之數。何必激切因噎廢食。乃為全身遠害哉。今竊議于羅漢內門中埔庄。設汛防兵三百名。以千總一員駐劄其地。郎嬌亦設千總一員。兵三百。控扼極邊一帶。三六九期。操演之外。准其自備牛種。就地屯田。以為餘資。雖險遠而弁兵便焉。檳榔林在平原曠土之中。杜君英出沒庄屋。久被焚毀。附近村社人煙稠密。星羅碁布。離下淡水營內埔庄汛防不遠。無庸更議。至各處鄉民欲

入深山採取樹木或令家甲隣右互結給與腰牌毋
許胥役需索牌費一分一釐聽從其便伏讀憲檄添
防之制宜速議定以便平題覆夫今所宜更議者惟
羅漢門郎嬌而已矣外此則移八里岔汛千總駐劄
後壠爲半線淡水適中之地及添設文員諸事尚未
舉行其餘俱經遵照憲檄於南路添設下淡水營守
備帶兵五百駐劄新園設岡山守備帶兵五百駐劄
濁水溪埔扼羅漢門諸山出沒竇徑北路添設半線
守備一營帶兵五百居諸羅淡水之中土下控扼聯

絡聲援以諸羅山守備駐劄笨港增兵二百名添設
下加冬守備一營兵五百郡治添設城守遊擊一營
兵八百與鎮標三營相埒再加羅漢門郎嬌各添設
風防兵三百則全臺共計增兵三千六百名較憲檄
前指之數止多一百但此三千六百之兵必須請
旨額外添設就內地各標營分額招募按班來臺如
往例三年一換然後內地不至空虛無顧子失母之
病諸羅地方遼濶鞭長不及應劃虎尾溪以上另設
一縣駐劄半線管轄六七百里鹿子港雖口岸扼要

即今之彰化縣

周○到○

離半線僅十五里。不用再設巡檢。將巡檢設在淡水。
八里坌兼顧雞籠山後笨港。設巡檢一員。駐劄笨港。
佳里興巡檢仍還佳里興。駐劄帶管日加溜灣。移典
一○定○道○理○
史歸諸羅縣治南路鳳山營縣。雖僻處海邊。不如下
埤頭孔道衝要。然控扼海口。打狗眉螺諸港。乃匪類
出沒要區。當仍其舊。不可移易。添設鳳山縣丞一員。
駐劄搭樓稽察阿猴林篤住等處。彈壓東南一帶山
庄。下淡水巡檢一員。不許留郡。仍令駐劄下淡水稽
察淡水以南各庄及諸海口臺鳳諸各縣各練鄉壯。

三百名在外縣丞巡檢各練鄉壯三百名無事則

之隴敵有役則修我戈矛鄉自為守人自為兵此萬

全之道也伏讀憲檄營伍操練宜勤虛冒舊弊宜除

如讀武侯心

塘汛分防宜變通三者皆極切當時弊有兵不練與

無兵同兵不能識將意將不能識兵情是謂烏合器

不與手相習手不與心相應是謂生疎職每誠諭臺

屬標營定以三六九日按期操演三令五甲如臨大

敵又為之捐造仗房鎗炮火藥以足其用其分防外

汛之兵大汛每駐一二百人亦令如期操演查足器

械塘兵專遞公文多人旡益每塘止定三名小汛之
兵不上數十人分作兩班赴親近大汛操演不許懶
情有操期不至者大汛記名逐月造冊報查又不許
無故擅離汛防凡有逃亡事故立即報移內地調補
不許在臺招募一人以滋弊竇違者叅革其官務使
地皆實兵兵皆可用前此虛冒名糧之弊盡行廓清
獨將弁書識一項未能遵諭革絕蓋緣武人不學者
多鮮有親操翰墨而兵馬錢糧文移冊籍非可全憑
口說且自古軍中字識名將不廢若用其人而不給

其糧情理亦未甚協。不揣愚懵。妄爲酌議。臺鎮中營
遊擊及各營守備。應各予書識八名。外營遊擊各六
名。千把總雖係微員。亦不可全無一字。應予書識各
一名。水師副將十名。南北二路叅將各予大名。總兵
書辦十六名。使粗足備具文書。不至如從前冒濫將
伙糧盡行禁革。可謂節嗇至矣。未審憲臺以爲有當
否。臺地少馬。無以壯軍容。而資衝突。今擬鎮標三營。
城守一營。各設馬兵六十名。南路北路二營。各設馬
兵八十名。共該馬四百匹。卽在添設三千六百兵額。

之內請

旨配撥先自內地帶馬來臺以後換人不換馬或有
倒斃方就臺地孳生買補時或孳生不足亦向內地
採買以來則無苦累民番之處伏讀憲檄陰奸務尺
附和倡亂之徒非脅從可比應將黨惡創懲黥其左
面同家屬押逐原籍拘管稽查復承列單開出名數
深得火烈民畏鮮死之義臺網久漏吞舟民不知國
法爲何物安逸而思爲亂階甫平而又圖復起所以
九月間舊社鹽水港六加甸等處奸民職等不敢不

已不止黥面矣

便宜行事。泉斬四五人。杖斃六七人。以定民心。而固

然則黠面鳥能止亂哉劍鋒相對意在言

疆圍。今尚未及三閱月。復有后壁寮羅漢門一二亡

表

命。布散流言。欲燃死灰。聚黨二十八人。遂敢豎旗為

孽。可笑。可憐。可憎。可恨。職等分遣搜捕。立獲為首。荆

暗答除奸務盡

瓜成。蘇清高。三揚美。王教。五人。現今整眾搜山。八面

焚烈。務必盡絕根株。不留種類。除荆瓜成一名。係朱

一貴。偽國公。應解憲轅。聽候題達正法。其餘蘇清

分別斬賊。但黠面

揚美。及續獲諸賊。職等又將于軍前。權行專擅。竿首

業街。使芳民喪膽。東土永寧。其潛通奸匪。附和接濟

之人照憲檄處分押回原籍惟是黥面雖差畢竟一

葉即去似不如餓耳之不可復續較便稽查其五月

○散○不○宜○寬○宜○靜○不○宜○處○處○相○照○

間舊賊已散為民者非奉憲行及他有所犯槩不問

及所以開更新之路使安靜而不自危也伏讀憲檄

要口設備議建鹿耳門砲城水陸分守竊謂鹿耳砲

城止用修築不必從新建造蓋其港暗礁淺沙渺茫

紆險非有緜然門戶可以遵道而行故須設立邊纓

○原○是○天○

標記指引途亮釐偶差立見藿粉雖不砲城固亦

未易入也前此癸亥平臺海潮驟漲巨艦連舫並排

而入今夏六師進剿潮水亦高數尺皆賴

朝廷洪福海若效靈遊魂喪魄夫豈砲城之故哉且

更○為○顯○豁

臺賊多自內生鮮由外至倘賊來自外則郡治兵將

是○反○為○賊○設○險

雲屯百萬蒼黎未易侵擾若賊起自內雖隆砲之城

至于天非徒無益反為漳泉內地之害藏等所見不

廣以為因仍補葺厥功已多此刻物力困憊俟他日

另議可耳臺地民番雜處狼子野心頑良參半建築

城池確不可易前請暫開磚石事例執事既以為難

而土城木城又難成而不能經久則亦未如之何耳

茲承憲檄栽竹為城價廉工省此亦因時制宜不得
 不然之勢謹即會同勘度環萬壽亭春牛埔將文武
 衙署兵民房屋沿海行舖俱為包羅種竹圍一周護
 以荆棘竹外留夾道寬三四丈削荆棘插地編為藩
 離逢春發生立見蒼茂桐外開鑿濠塹苦臺地粉沙
 無實土淺則登時壅淤深則遇雨崩陷多費無益止
 可略存其意開濠廣深六七尺種山蘇木濠內枝堅
 刺密又當一層障蔽沿海竹桐不周之處築灰牆出
 地五尺高可蔽肩為雉堞便施鎗砲開東西南北四

門。建。城。樓。四。座。設。橋。以。通。來。往。量。築。窩。鋪。十。二。座。以。當。砲。臺。如。物。力。不。敷。城。樓。未。建。植。木。柵。爲。門。兩。重。亦。可。暫。蔽。內。外。茲。會。委。署。臺。灣。縣。孫。令。量。明。丈。數。擇。日。興。工。每。十。丈。令。設。竹。簽。一。桿。杙。于。地。中。高。五。尺。廣。三。寸。編。千。字。文。爲。號。卽。于。某。字。號。下。寫。管。工。某。人。姓。名。照。天。地。青。黃。次。序。不。許。錯。雜。統。計。全。城。共。幾。號。管。工。幾。人。先。造。一。冊。呈。送。以。便。稽。查。每。丈。需。竹。幾。株。桐。幾。柯。濠。幾。工。每。種。竹。一。株。需。錢。幾。文。插。桐。十。柯。需。錢。幾。文。開。濠。一。丈。需。錢。幾。文。舉。一。丈。而。全。城。價。直。瞭。然。胸。

是。晚。經。濟。一。班。

中不可欺。誑工有勤惰。按號稽查。竹有榮枯。按號栽
 補。可無彼此推卸。舍混侵漁。三年之後。叢生茂密。雖
 未及石城堅好。然亦已牢不可破矣。郡縣既有城池
 兵防。既已周密。哀鴻安宅。匪類革心。而後可施富教。
 而臺灣之患。又不在富。而在教。興學校。重師儒。自郡
 邑以至鄉村。多設義學。延有品行。者為師。朔望宣講。
 聖諭十六條。多方開導。家喻戶曉。以孝弟忠信禮義廉
 恥八字。轉移士習。民風。斯又今日之急務也。若夫征
 臺將弁。雖効微勞。俱是臣子分內。當為之事。臺地員

聖

安臺藻石

大儒經世之言

缺無幾安能人人升擢。况蒙憲恩格外獎勵。躁進爭○憚○明○此○
心未應不肖至此。此何足煩憲臺。諄諄遠念哉。職等○倖○為○諸○將○懷○高○身○分○得○體○
狂言切直。總為地方起見。有懷欲達。煩冗不文。伏惟
憲臺諒其心而恕其罪。則幸甚。

全臺形勝利病。民情事勢。朗豁胸中而出之。以昌
明斬截之筆。遂覺沉痛淋漓。不啻迅雷。啓蟄此絕
大力量。絕大經濟。非僅僅安臺手段也。

大。代。量。歸。大。強。齊。非。勤。勤。安。臺。平。好。也。

用。博。燭。之。筆。變。費。必。無。精。而。不。管。因。雷。皆。覺。其。詳。

全。臺。沃。烈。條。蘇。月。計。事。楚。用。禮。而。出。之。必。得。

最。臺。其。心。而。吹。其。罪。限。幸。其。行。者。必。命。而。其。言。也。

理。言。以。直。懸。為。此。大。政。具。有。對。於。對。取。不。大。外。計。

必。未。願。不。肖。至。此。此。向。又。歎。意。臺。其。言。盡。念。是。繼。其。

勉。無。幾。安。指。入。入。長。辭。其。業。意。恩。蘇。以。獎。備。強。其。年。

覆制軍遷民劃界書

望後二日。連接憲檄臺疆經理事宜。已經條分登答。備細覆上。想此時尚在舟中。未達記室。茲又承到憲檄。臺鳳諸三縣山中居民。盡行驅逐。房舍盡行拆毀。各山口俱用巨木塞斷。不許一人出入。山外以十里為界。凡附山十里內民家。俱令遷移他處。田地俱置荒蕪。自北路起至南路止。築土牆高五六尺。深挖濠塹。永為定界。越界者以盜賊論。如此則奸民無窩頓之處。而野番不能出為害矣。執事留意海疆。可謂諄

諄切摯議論高明爽快直截地方果能如此文武皆

可卧治何其幸也惟是臺地自北至南一千五百餘

里山中居民及附山十里以內之民家未經查明確

實不知其幾萬戶田園不知幾萬畝各山隘口不知

幾何處應俟委員勘核造冊報聞但天下非常之事

必非常人乃能為某等籌度再四未得善處之方理

合復請指示免致臨局倉皇惟執事明以教之欲遷

數萬戶之民居必有可容數萬家築室之處而此數

萬家又不能不耕而食必有可容十數萬人耕種之

平○開○口○便○令○技○窮

實似語真來行

轉

華○是○新○風○言○中○有

田則度地居民爲此日第一急務矣。今全臺山中之地既欲盡棄附山平地又棄十里卽以三十里而計。已去一千五百餘里之三十里截長補短應得縱橫各四百五十里之地以爲被遷之民之田疇廬舍不知此地從何撥給所當籌度者一也。人情安土重遷非盡戀戀故地亦苦田舍經營所費不貲富家棟梁瓦桷可以搬赴新居土匠牆垣亦費其十之六貧家土舍茅簷無可移用一經遷徙則當從新建蓋以亂後殘生露肘跣足囊殮不繼之貧民何以堪此茅綯

精細

體貼民情可謂周

土。木。之。繁。費。嗟。嘆。之。聲。既。不。忍。聞。勢。不。得。不。有。以。資。

之。每。屋。一。間。給。周。恤。銀。五。錢。計。費。錢。糧。五。六。萬。兩。不。

知。動。支。何。項。所。當。籌。度。者。二。也。谷。山。隘。口。未。知。幾。何。

卽。以。羅。漢。門。一。處。而。論。已。有。三。四。路。可。入。則。此。一。千。

五。百。里。之。山。其。隘。口。不。止。百。計。每。日。伐。木。挽。運。百。夫。

亦。須。三。五。日。計。用。人。夫。不。下。三。五。萬。不。知。係。官。自。僱。

募。抑。或。派。之。于。民。所。當。籌。度。者。三。也。一。千。五。百。餘。里。

之。界。牆。一。千。五。百。餘。里。之。濠。塹。大。工。大。役。海。外。僅。聞。

計。費。錢。糧。不。下。十。萬。兩。將。給。之。自。官。則。無。可。動。支。之。

語。駭。人。聽。聞。

其。下。少。如。此。

平。此。常。二。

亦。少。不。得。

頂○將○派○之○於○民○則○怨○聲○四○起○必○且○登○時○必○然激○變○所○當○籌○
 度○者○四○也○寇○亂○風○災○之○後○民○已○憔悴○不○堪○百○孔○千○瘡○
 俱○待○補○救○即○使○安○靜○休○養○時○和○年○豐○尚○未○能○遽○復○元○
 氣○况○又○有○棄○去○田○宅○流○離○轉○徙○之○憂○即○使○有○地○築○舍○
 有○田○開○墾○而○五○錢○之○惠○能○成○屋○宇○幾○何○從○百○姓○心○為○體○貼○出○來○天○理○人○情○之○至雜○草○披○荆○能○
 望○西○成○幾○何○况○又○有○無○資○可○藉○無○地○可○容○之○憂○民○遂○
 肯○餐○風○宿○露○相○率○遷○移○于○無○何○有○之○鄉○大○荒○廣○莫○之○
 野○乎○民○而○肯○遷○豈○不○甚○善○假○如○強○項○不○依○嗥○嗥○有○詞○
 將○聽○其○不○遷○而○中○止○乎○抑○以○兵○威○脅○之○乎○所○當○籌○度○
此○是○兩○難○之○事

者五也。既已三令五申，費盡心力，復聽其不遷而中。止則憲令不行，是教民刁悍而開抗官犯上之風。非所以為治也。若以兵蹙之，使移則民以為將殺已，抗拒亦死不抗拒亦死，必制梃與官兵為敵。至于敢敵亦遂不容不殺矣。無故而殲我良民，於心有所難安。○汗○下○殲不盡則禍不已，殲之盡則人又不服。既上乖

朝廷好生之德，又下失全臺數百萬之人心，所當籌度者六也。自古以來有安民無擾民，有治民無移民。雖以盤庚之聖，商民有魚鼈之憂，然而遷殷一役，舌

○說○列○此○處○今○人○通○身○

敝唇焦至今如聞其咨嗟太息可見安土重遷本非
 易動况無故而使千五百里之人輕棄家鄉以餬其
 口於路乎開疆拓土臣職當然蹙國百里詩人所戒
前○許○多○辦○博○至○此○則○單○刀○直○六○不○管○痛○哭○流○
 無故而擲千五百里如帶之封疆為民乎為國乎為
涕○矣○
 土番盜賊乎以為民則民呼冤以為國則國已蹙以
 為生番殺人則剷去一尺彼將出來一尺界牆子以
 潛伏可以捍追正好射殺民人以為欲窮盜賊則于
 五百里無人之地有山有田天生自然之巢穴此又
成○以○宜○不○白○笑○無○謂○
 盜賊逞志之區不知於數者之外或他有所取乎夫

事必求其有濟。謀必出於萬全。循斯檄也。以行能必
○且○定○到○底○
 其有濟。不無濟。而不召亂。伏之而也。殘民而有功於
 國。亦未為不可也。能必其不召亂。不殘民。而又能有
 功於國。則算出萬全矣。不然。願執事之熟思之也。
○言○盡○而○意○以○窮○

以極有謨畧。幹濟定亂之偉人。忽然有此怪檄。殊
 不可解。豈功成智昏。江淹才盡。抑欲以試地方文
 武之本事。擔當數前面許多。婉轉竟似認真要奉
 行一樣。以後層層剝入。步步逼緊。直令一辭莫措。

亦可謂善于挽回。其容製太息。下良文士。更製本此。

論臺變武職罪案書

臺灣失事武職七十餘員分爲三案勘覆陣亡殉難

及劉得紫等不失臣節諸人可無疑議其餘棄地逃

歸在臺從賊一槩輕擬此乃道府文員欲行善事非

鄙人所敢掠美也從賊諸員皆以踪跡未明請親覆

訊逃歸諸員則以逃之一字軍法所忌槩用退澎二

用代○字○缺○非○婦○人○而○何○

字代之婦人之仁其實可笑國家刑賞異用所以

鼓勵臣節爲斯世存三綱五常使知禮義廉恥之外

尚有誅戮可畏耳有春夏而無秋冬則四序不成有

既○忌○則○不○應○逃○何○煩○爲○之○隱○詳○似○此

○議○論○

○正○大○
慶賞而無刑威則亂賊接踵故魯人肆眚春秋譏之

惟佛氏慈悲一頁虎蛇放生而已矣李由陳喜等六弁

既經從賊失身辱國則罪同叛逆之科戀不忍誅

○老○辣○
奚為乎周應龍玩寇陷臺實為戎首喪師棄地潛逃

泉州張彥賢王鼎等六員坐視其協主許副將之戰

死而不救棄城聯踪逃去澎湖與直走泉州之王丑

皆不容於堯舜之世者也此輩平日享榮華糜祿俸

○錄○出○唐○人○小○照○
無事則耀武揚威小警則垂頭喪氣養成叛亂挈家

○實○在○有○傷○國○
奔逃朝廷封疆棄若敝屣倘聽優游漏網其如

國家體統何況守土之臣文武一例文員無兵不能
抵敵道府廳縣梁文煊等一走澎湖尚在封域之內
即已駢首市曹周應龍張彥賢等有兵有弁可以殺
賊澎湖又屬他境泉州則在千里之外遁逃獨遠反
可晏然從寬何其苛於文而厚於武也某武人豈不
自愛其等竊恐九原之下梁文煊等有所不服且許
副將忠魂亦必怒髮裂眦痛心疾首不肯使奸人獨
生何則天下事惟公惟正可以使人心服消宇宙不
平之氣此曹可免竿街則梁文煊等皆為枉死失出

服○許○榜○樣

其○將○何

如○此○比○照○總

失入二者必居一於此矣其與道府同舟共濟意在

協恭和衷既已曲從所議何必為此無益之繁詞但

恐執事以柔懦暗昧見責謂武人欲效慈悲不知

國體則某不任受也應否從寬從嚴執事自有定見

不必以其言為疑某止表白其心迹亦自知嫉惡太

嚴有失厚道惟執事恕而教之

同一棄地逃歸在文職則駢首市曹在武弁則市

恩姑息且併從賊者亦寬之成何法紀篇中議論

正大可以維持世道人心非刻薄也

論劉得紫書

原任臺鎮中營遊擊劉得紫品行端方性情溫雅本
非小就之器。今陷賊不屈忠貞之操深可嘉。向全臺
士庶既已衆口一詞。某又確勘真實。所謂從容就義。
臨大節而不可奪者。殆其人歟。某自入臺以來。閱人
甚多。所敬且愛。惟此君耳。雖盛怒之下。見其來。則欣
然以喜。渠雖名節既成。不圖仕進。某竊願執事特疏
褒旌。以為千秋志士之勸。更冀題補閩缺。快此邦士
民耳目。且使地方收得人之效。一舉而數善備也。在

為劉君高尚拾身分

推重盡

某非有所私實為世道人心起見見好回不忠則欲
殺欲割見忠臣義士則欲泣欲歌賤性固然惟執事
勿吝成人之美綱常名教尚有賴焉某白

忠臣義士不帝威鳳祥麟自非有胸無心安能淡
漠置之寥寥數語一片熱腸使海外蠻方知有綱
常名教此功更為不小

此書與中昔我輩因得讀此書始知此書之
不為虛言也

東征集卷四

漳浦藍鼎元玉霖稿

天長王者輔近顏評

論臺鎮不可移澎書

臘月望後三日。連接憲翰五函。及馬守備安遊擊口
述鈞諭。俱令某暫駐臺灣。不可遽爾班師。竊惟此時
臺中大定。署鎮黃總兵足資彈壓。以某越俎久淹。自
顧亦覺無謂。况廷議已令臺鎮移澎。易來副將是一。

○總○兵○處○此○尚○嫌○其○多○而○某○又○為○蛇○足○獨○留○不○去○竟○似○

○貪○戀○雞○肋○殊○堪○羞○慚○裁○營○減○兵○之○說○臺○人○聞○知○頗○有○

○贊○嘉○偶○語○者○某○告○以○部○議○未○足○為○定○必○待○督○撫○提○臣○

○遵○依○具○奏○方○可○施○行○茲○承○憲○檄○減○兵○及○裁○回○將○弁○各○

○數○某○尚○秘○不○宣○露○望○早○晚○或○有○變○更○若○果○臺○鎮○移○澎○

○則○海○疆○危○若○累○卵○憲○臺○亦○欲○確○遵○部○議○耶○部○臣○不○識○

○海○外○地○理○情○形○憑○臆○妄○斷○看○得○澎○湖○太○重○意○以○前○此○

○癸○亥○平○臺○止○在○澎○湖○戰○勝○便○爾○歸○降○今○夏○澎○湖○未○大○

○故○臺○郡○七○日○可○復○是○以○澎○湖○一○區○為○可○控○制○全○臺○耶○

○根○由○確○是○此○意○

○先○推○部○議○

有此議不知臺之視澎猶太倉外一粒耳澎湖不過

水面一撮沙堆山不能長樹木地不能生米粟人民

不足資捍禦形勝不足為依據一草一木皆需臺廈

若一二月舟楫不通則不待戰自斃矣臺灣沃野千

里山海形勢皆非尋常其地大于福建一省論理尚

當添兵易總兵而設提督五營方足彈壓乃兵不增

而反減又欲調離其帥于二三百里之海中而以副

將處之乎臺灣總兵果易以副將則水陸相去咫尺

兩副將豈能相下南北二路參將止去副將一階豈

澎不足恃

險要

此言古臺之

此言易將之弊權不一必至

說異

候事

能俯聽調遣各人自大不相統屬萬一有事呼應莫
 靈貽悞封疆誰任其咎以郭子儀九節度之師而不
 立元帥統攝尚且師徒潰散况今日耶澎湖至臺雖
 不過二三百里順風揚帆一日可到若天時不清颶
 颶連綿浹旬累月莫能飛渡臺中百凡機宜鞭長不
 及以澎湖總兵控制臺灣猶執牛尾一毛欲制全牛
 雖有孟賁烏獲之力總無所用今在廷臣工莫有敢
 出一言為

皇上東南半壁封疆之計何異欲棄臺灣乎臺灣一

云則泉漳先為糜爛而閩浙江廣四省俱各寢食不

寧山左遼陽皆有邊患其庸愚無識以為此土萬萬

不可委去特恨位卑人微處不可言之地想憲臺與

中丞呂公提軍姚公必有一番議論為社稷蒼生回

天指日或會疏入告或密摺婉商造萬世無疆之

福非某所敢饒舌也若遵部議而行必悞封疆彼時

九卿豈肯平分其咎某杞人妄憂中心如焚非特為

桑梓身家之慮惟望恕其狂瞽且賜明示解或焉

危言切論幾同賈生痛哭緣地方安危所係不激

此處重加慨嘆所以從動諸公

已上利害已明

刺入督撫心窩

覆將弁矜功觖望書

伏承憲檄以提標前營遊擊林秀澎湖協右營守備
林亮及千總胡廣等三人並怙功自矜心懷觖望每
有不平之色時出怨誹之言令某當衆嚴加申飭此
自憲臺教誨盛心激勵裁抑以玉於成遵卽傳集將
弁宣布飭檄俾皆退然自歛無再伐善施勞致于咎
戾惟是三人情性不同謙肆各別有宜畧加優容不
必一槩督責者林秀觖望所不能免但彼在軍頗爲
出力卽如大穆降追賊將弁有未勇往者秀遽以軍

令驅之且申文請斬遊擊齊元輔此種氣魄自熱不能以肅軍紀則其目

中不有同列也久矣後見南北二路參將員缺俱界

他人不能無怨誹不平之氣然此國家驍將也其

舉動雖不循規矩而膽畧可嘉有事疆場不惜軀命

似當于驪黃牝牡之外別立一格待之如馭惡馬不

可使之踉齧又當勿吝每食盡穀一石以稱其量此

日誠諭裁抑使彼降心下氣如背負芒倘遇副參員

缺不妨破格題遷俾喜過望恩威並濟未有不愧感

交集者也林亮平臺先登論功第一固人人而知之

不待其自矜表白但某所敬亮者尤在保守澎湖爲
功之大當朱一貴作亂之初臺灣報陷澎湖協將弁議
棄澎湖各遣家屬登舟亮以一夫弁排衆議仗劍奮
呼遂固疆圉不特義勇冠三軍其于臣節亦皎然星
日矣鹿耳先登安平先登西港先登未嘗自鳴得意
至于入府之日諸將或貪小利封入舖屋獨亮部伍
利○想○見○節○制○之○師○肅然不動民間一草一木今臺平已經逾載諸將紛
紛遷轉副叅遊都纍纍若若獨亮依然守備在廠督
盡○心○公○事○修戰船盡心竭力如治家私無一毫怨誹不平之氣

庶幾當于古賢將中求之區區遊擊一官尚兩載不

可得所當亟懇憲臺計功錄用以服軍前將士之心

者也情胡廣雖干總末弁然鹿耳門奮勇奪險實從林

亮先登乘勝攻克安平大戰鯤身收復府治勞績顯

著加以人材魁偉氣度亦異僅處偏裨之任尚未足

稱其才王道况今久屈末弁至今弗獲寸進不平怨誅亦

屬常情本平人惟在憲臺急加擢用將感激圖報之弗遑而

亦何缺望之有公至總之三人雖有純疵之分俱皆

國家良將林亮林秀英勇無敵胡廣技能亦屬出眾

而亮更有巧思製造魯公車子母礮不推自行戰船
變。精妙弗可思議又加之以賢德洵卓卓不可及也三
人所就俱不可量風聞之語亦難盡信惟執事稍加
優容焉。

功成已久將士遷擢紛紛獨首功之人爵賞不及
尚欲以缺望責之亦大難予為情矣然在庸手不
過代請寬容為將弁申辯並無怨誹而已此偏說
他不宜久屈怨誹的是一則曰破格題遷一則曰
計功錄用一則曰急加擢用可見君子必反求諸

已不可一味責人直是掀揭大手段諸將弁有不
感激流涕願為之死者乎筆下清剛老辣亦有萬

夫不當之勇

尚必以無堅責之衣大獲于

如

對

入

獻

而

論舊兵停餉撤回內地書

舊兵收回効力已經半載有餘搜捕操防並無失伍
○開○口○便○有○不○可○去○之○意○
 忽承憲檄以二千餘名糜餉不貲且其昔日在臺皆
 失封疆之士不能効死覲為賊民宜一切革去名糧
 逐回內地見今冬餉即為停止某竊思之此輩從前
 失地損威辱○不○必○復○責○之○國罪不勝誅業蒙憲恩寬大檄令于
 王師進討之時奔投大軍歸正効力是以前後收伍
 有此二千餘人自閏六月領給糧餉至今隨征南北
 入山搜捕奮勇前驅已忘其為前此失守之士矣今

追論前過在彼自無可辭不可謂非欺但以從前憲檄為欺已于

心亦微不服賊醜跳梁全臺俱陷文武員弁紛紛竄

逸遊擊周應龍張彥賢等四五十員或逃或匿從賊

失節俱皆覲然軍前効力未聞市曹之上正法一人可謂放飯

獨責舊兵以不能効死恐彼將嘵嘵有詞也昔日勿流動而問無齒決

為收伍彼自垂頭去矣收伍之後依然官兵月給餉自歸恐

糧養家贍口今一旦盡為革除失其生計仰事俯育實又在可畏

將何所資怨望積于中飢寒迫于外欲保其不為盜

賊蓋憂憂乎難之頃奉部檄總兵官移駐澎湖裁去

臺灣水陸兩中營減兵二千士庶皆懼亂復作一
二無賴布散流言正在安戢釋疑焦心勞思之不暇
豈容復益以二千餘名之舊兵革糧怨憤攘臂一呼
是○大○言○恐○赫無賴子弟皆起而為盜賊非綏靖邊疆之道也某幸
何知已言聽計從事關可○謂○公○忠○大○臣國家不敢因循召變謹封
遠憲檄乞執事再為熟思可否念其還伍已久効力
半載仍聽在營操防出自格外弘恩倘萬不得已欲
去其籍亦須姑遲一兩月檄令內地各營班兵來臺
換回彼在此間則有二千餘人及其換回內地分散

八府一州每營不過二三十人然後徐飛一紙裁革
故○事○自○不○同○也○名糧此在執事掌握中耳何必張皇急遽驚動海疆
之聽聞乎勿謂蚩蚩其勢可畏束縛窮蹙禍起目前
不知執事以為何如也

債軍失地殘卒原可不必收回既已檄招還伍効
力半載又豈可一旦盡革海外反側地方人心驚
惶之際無故激出二千餘人怨憤生事殆哉岌乎
封還憲檄是公忠為國手段末後又未嘗不為
善處宜其捷于轉圜也

論征臺壯丁停餉歸農書

伏承憲檄以征臺壯丁千餘人不在經制兵額之內。月糜糧餉無處開銷。今地方事定可即停止月糧。諭令回籍務農。無許留滯臺灣。或致生事竊思此曹召募之初。原許給與名糧。造入兵籍。俾出死力以建功。名上功題。薦特用中功。輪補把總。餘皆編為經制。如例拔擢隊目。是以壯丁感激奮勇前驅。凡有戰陣所向無敵。今地方事定。正論功行賞之秋。酌酒相慶。願望功加部劄者。不知凡幾。一旦停止月糧。令回農畝。

藉其力以成功

將無視為空中霹靂可驚可愕之事乎滿腔熱血所

望功名捐軀命冒鋒鏑膏塗原野而弗顧豈其志在

一兵奈何併一兵而革之怨憤之氣上干天和嗟嘆

之聲心傷行路如之何其可也小人無知噫噫有詞

謂事急欺我以出征事平束我于高閣昔許我官今

吝我糧人而無信不知其可烏盡弓藏復見今日某

惟有啞然慙然實不知將何以對之君子不可失信

于民况煌煌憲諭墨瀋未乾豈可遽自食言授小輩

以口實灰軍前將士之心塞將來得人死力之路竊

此是實話却已刺骨

雖有餘放之舌亦無詞以對

亦非所必自為

請班師書

臺灣已經大定軍士久役思歸班師之期再不容緩

臘月十四日守備葉應龍到臺詢知粵省姚提軍改

調廈門不勝手額既有金門黃總兵署理臺鎮足資

彈壓新提軍又慶得人東南鞏於磐石矣此時山際

廓清南路阿猴林北路大武壠中路羅漢門等處所

有窟窠俱已搜尋焚山烈澤寮棚燬盡匪類逃散湮

滅無踪雖王忠劉富生二人未獲亦已狼狽顛連無

地逃生旦暮就縛此後或有妄報訛言執事亦不必

聽之矣。此間莠民固多。而捕風生事。獻諛要功之輩。

更復不少。一紙入報。雷厲霆飛。非賊而加以賊名。無

故移人之村落。驚疑四起。家家自危。此召亂之道也。

某在此間。尚不自量。恃蒙執事之愛。每封還憲檄。為

民請命。皆荷仁恩。寬大終賜。曲從。是以地方諸凡。相

安不覺。若某行後。誰復肯專擅任過。以櫻大憲之逆

鱗。依文行文。或至擾動。不可收拾。敢期執事將前後

密差在臺採訪弁員。悉為撤回。一切地方事宜。惟臺

道府縣是問。彼職司民社。擔負在肩。治亂安危。事關

請班師書

臺灣已經大定。軍士久役思歸。班師之期再不容緩。○班○師○之○意○兩○言○而○決○耳○
臘月十四日。守備葉應龍到臺。詢知粵省姚提軍改
調廈門。不勝手額。既有金門黃總兵署理臺鎮。足資
彈壓。新提軍又慶得人。東南鞏於磐石矣。此時山際
廓清。南路阿猴林。北路大武壠。中路羅漢門等處。所
有窟窠。俱已搜尋。焚山烈澤。寮棚燬盡。匪類逃散。湮
滅無踪。雖王忠劉富生二人未獲。亦已狼狽顛連。無
地逃生。旦暮就縛。此後或有妄報詭言執事。亦不必

聽之矣。此間莠民固多。而捕風生事。獻諛要功之輩。

更復不少。一紙入報。雷厲霆飛。非賊而加以賊名。無

故移人之村落。驚疑四起。家家自危。此召亂之道也。

某在此間。尚不自量。恃蒙執事之愛。每封還憲檄。為

民請命。皆荷仁恩。寬大終賜。曲從。是以地方諸凡。相

安不覺。若某行後。誰復肯專擅任過。以櫻大憲之逆

鱗。依文行文。或至擾動。不可收拾。敢期執事將前後

密差在臺採訪弁員。悉為撤回。一切地方事宜。惟臺

道府縣是問。彼職司民社。擔負在肩。治亂安危事關

工印

可謂不機忘諱

可為大巨

切已未必皆視隔膜。不如差弁之盡心。且平日讀書明理。閱歷世務。未必俱皆暗昧。不如差弁之聰明。某不學無術。竊謂鷹犬止可以獵狐兔。不宜他有所用。勿論此輩把持不定。利欲薰心。所言未必皆實。即使矢念不欺。難保其不爲人欺。惟執事加之意焉。新提軍歲內可至。某當躬趨赴廈。交代兵符。不便久留臺中。致滋物議。請飭在廈舳舻。星速來臺。配載班師。曷勝望切。

採訪以防壅蔽。然亦多至悞事。以可信任者少也。

安得地方官皆能封還憲檄為民請命哉議論淋
漓沉痛迫切可令輕聽者通身汗下

覆軍前將弁可當大任書

兼承密札從征將弁可當提鎮之任考令具甄別高

下臚列薦知不勝惶悚夫人非久于相聚安敢遽定

其生平况功名有數原不必盡皆稱量朝編卒伍暮

擁節旄李廣難封馮唐易老誰雖誰雄亦似難以一

言斷也况某淺陋粗疎素未有知人之明偏見測度

恐未必中但以憲諭諄諄不得不據臆妄談惟執事

權衡斟酌焉水師提標前營遊擊林秀南澳鎮左營

守備呂瑞麟皆剛愎傲上有好大飛揚之氣然胆畧

將○著○其○論○不○必○以○此○其○假○

亦○有○不○可○盡○知○者○

道○理○實○是○如○此○非○謙○詞○也○

並優勇敢出羣實國家之驍將也秀矜誇瑞麟沉

鷲秀不拘細謹瑞麟凜于操持弗擁節旄二人俱弗

肯已必、撤、驚、曰、知、我、也、但瑞麟似較遠大耳聞安協左營遊擊朱文小

心謹慎確、是、定、評、雖剛毅不足可當一面藩籬之寄汀州鎮左

營遊擊王紹緒整飭營伍有輕裘緩帶之風福寧鎮

右營遊擊郭祺老成練達海壇鎮左營遊擊謝希賢

簡易果敢雖不無鹵莽之處要自瑕不掩瑜撫標左

營遊擊邊士偉曉暢軍務金門鎮右營遊擊薄有成

質直嚴肅陸路提標右營守備康陵壯猷沉厚漳浦

營守備蕭明良謙和謹飭烽火營守備蔡勇雄偉樸

實興化協左營守備劉永貴剛勁端嚴諸人氣度似

與偏裨稍別皆太平之良帥也澎湖協右營守備林

亮平臺首功且有抗守澎湖之大節人品將畧在軍

前諸將以上提鎮之任靡所不宜將軍標右營遊擊

魏天錫海壇鎮右營守備魏大猷係同胞兄弟皆奇

諳水性能頂盛束甲游海面又能赤身入海底潛行

一二百里如安平鎮至臺灣府水程五十里大猷天

錫入海中潛行頃刻即至同安營守備葉應龍銅筋

諸節鐵亦不差一二

純全品諸直似

天半孤擊

存人

竟是

水怪

鐵骨刀棍不能傷以石擊其頭石反碎三人皆奇傑

卓犖非尋常將弁可比界以封疆誰曰過分但魏天

錫已病恐不從待節鉞耳千總董方胡廣李郡林君

卿皆將帥才董方好大矜功恐未免為人所嫉胡廣

勇銳英發李郡厚重精明殊不可量林君卿果敢質

實罔憚勤勞四人皆志切上進不願以偏裨自擬雖

見居下弁勃勃有封疆之氣未可以名位微末少之

其餘諸將所見未真不敢強解大抵英才尚多昂昂

千里嚶嚶志氣自以為武直頗牧欲取斗大繫肘後

便討諸欽可謂巨眼

今改桂五

未弁

固人人如一轍也。或才雖庸而福則厚，器不足而遇料有餘，天下事非可以意見測度，亦在用之而已。然情語後知長短，惟執事權衡斟酌焉。不揣冒昧，憑臆臚列。執事秘勿示人，免衆人怨謗，口舌則幸甚。

征臺將弁甚多，獨評論此二十人，以二十人矯矯出衆，可望節鉞，則人才之盛極矣。褒貶精嚴，使諸人神氣躍躍紙上，寫生妙手也。○十年之內，膺節鉞者已十有二人，餘可拭目俟之。出所料外者，僅總兵齊元輔一人。當時何不湊上全璧，然亦不必。

請寬楊姓株連書

伏讀憲檄林亨等一案飭捕南北餘孽及調遣水師
兵丁策應具見去疾務盡苦衷但中間有于溝尾楊
地方督責楊姓窩藏叛逆着落究出楊來將楊族俱
遷內地原籍安置等語則職等竊有欲叅末議者溝
高。昭。說。明。見。得。此。族。非。叛。者。
尾楊非他卽溝尾庄楊旭等一族是也楊旭楊石楊
雄聚族倡義誘擒賊首朱一貴翁飛虎張阿三王玉
全等方蒙賞賚又欲擢用數人補授弁職此族豈肯
復萌異志窩頓楊來設使楊來未死亦必在內山深

處彼平居作賊害人况云竿首藁街豈敢復出優游

里社此等奇貨誰能忘情欲洩念者已多欲獻功者

亦復不少而溝尾庄去諸羅邑治二十里當孔道之

衝楊來母妹尚不敢安其居逃匿他所正月中旬正

適處緝拿楊來母妹之日而謂來安坐家中與陳法

相見招集為匪莫過而問有是理乎賊口鴟簧此類

甚多雖不敢不信為真以密為訪緝亦不可遽信為

真以輕滋擾累從來亂賊激夥皆用此計必誣指良

民飛殃煽禍使黑白混淆無地逃生今日風傳欲拿

罪是令輕信者羞死

道設好人激亂

察處明日風傳欲勦某村人心惶惑厭畏官府因有
缺而走險墜其奸謀此之不可不慮也溝尾庄楊姓
數百人聚居已久室家婦子相安耕鑿今以莫須有
之楊來之故遂令闔族遷徙棄而田疇舍而廬舍是
無罪有功之民流離失所于堯天舜日之下作賊亦
死不作賊亦死烏窮則搏獸窮則鬪勢必臨以兵威
將此數百人盡行誅滅而後可已竊恐誅滅此庄他
庄又懼誅滅以訛傳訛將安所屆刻下三林竹仔脚
兩寨大盜未能悉數擒獲埔姜林水沙連大湖臺灣

其○實○確○甚

一○小○膏○痛○哭

如○此○正○墮

好○計

山後諸說。正在傳疑。未能徹底廓清。鎮靜密訪。則以
不。可。論。可。垂。
 次就縛。如捕雞豚。發擿過急。則驚疑四起。必生他變。
 職等受恩深厚。不敢不竭狂瞽之言。惟祈垂諒採納。
 以安全臺人心。裨益非淺鮮耳。職雖庸駑。然於地方
 之事。日夜廢寢忘餐。並無寧刻。深山窮谷。開闢以來。
此。等。苦。心。尚。不。見。諒。古。人。所。以。負。義。長。
 人跡不到之地。尚欲以番通番。深入搜求。冀得擒獲。
嘆。也。
 逸賊淨盡。根株况在郊關之內。通衢大道之中。苟真
 有窩匿。楊來及王忠等類之處。斷無敢掩耳閉目聽
 其安然自在。致費憲心遠慮之理。伏惟察照俯賜中

止地方幸甚

原情按事審勢度理無一不周天下豈有冤民乎
最愛其不識諱忌欲言則言侃侃烈烈淋漓痛快
所以能救楊氏一族者在此若瞻顧囁嚅則不能
動聽楊禍烈矣一讀一擊節摩娑不忍置

論哨船兵丁換班書

蓋澎湖水師換班之兵自當悉數遣發不使私留一人

諭旨當遵憲令亦不敢違也但哨船中舵繚斗旋各

兵則有不可更易者蓋閩船性命關係數人之手而

臺澎洋面橫截兩重潮流迅急島灣叢雜暗礁淺沙

處處險惡與內地迥然不同非二十分熟悉諳練夫

寧易以駕駛哉內地所來換班之兵雖曉水務畢竟

礁脉生疎不可倚賴而習熟可賴之舵工水手則內

地水師各營俱欲留以自用誰肯舍已讓人縱令換

此亦常情

橫洋利害

鄭中要文

班于遠勢必以疎劣嘗試苟且塞責以朝廷戰艦

官兵供斯人美錦學製之具希圖微幸于萬一蓋亦

危矣幸得苟安無事以庶幾港道漸熟瞬息三年瓜

期又至終不能長有此人不幸而中流風烈操縱失

宜頃刻之間不在浙之東廣之南則扶桑天外一往

不可復返即使收入臺港礁線相迎不知趨避衝磕

一聲奮飛無翼以朝廷戰艦官兵斷送于換班舵

絲之手是良法美意適以傾人性命斯亦當宁所

惻然傷心不忍聽聞者也夫事有經權法有通變與

危甚

更以易之弊如此

傷心

沉痛

單刀古無入不是合詞論

其悔之於後何如慎之於初執事經濟宏深忠誠爲
國不識尚有轉圜之機可於此中畧爲籌畫否上則
繕疏入告次則設法酌留依阿隱忍坐觀其做諒
高明必不出此惟執事留意焉

是非利害之故言之痛切令閱者神悚心開不敢
輕談更張事保全人性命不少

復呂撫軍論生番書

望後二日接讀教言。惓惓地方。心焉識之。臺中奸宄。

變幻百出。雖厚集儼臨。尚恐不足鎮壓邪心。若移鎮

澎島。往來巡視。謂可安靖地方。則仰賴

善於立言

聖天子威靈。士民福命外。此全無可恃之處也。生番

殺人臺中常事。此輩雖有人形。全無人理。穿林飛箐。

舍勦撫二字再無他法

如鳥獸。猿猴撫之不能勦。之不忍。則亦未如之何矣。

惟有于出沒要隘。必經之途。遊巡設伏。大張砲火。虛

所謂不攻而勝

示吾威。使彼畏懼。而不敢出耳。然此皆由于地廣人

稀不闢不聚之故非因侵擾而然蓋生番所行之處

必林木叢茂荆榛蕪穢可以藏身遇田園平埔則縮

首而返不敢走過其殺人剖截首級烹剝去皮肉飾

髑髏以金誇耀其眾眾遂推為雄長野性固然與民

人墾畝採樵生釁全無干涉亦無熟番仇殺推諉生

番之事某已准提軍谷移特遣前營林遊擊帶兵百

人前往會同營縣設法防閑或可稍為斂戢究未有

長策也然則將何以治之曰以殺止殺以番和番征

之使畏撫之使順闢其土而聚我民焉害將自息久

○以○虎○上○之○方○

○知○番○性○則○知○所○

○數○語○是○一○番○秘○鑰○

之生番。化熟又久之爲戶口貢賦之區矣。但畫界洋
制有經濟未如之何番之議方起此說且存而勿論可也。

威之使畏然後可以施恩制之有方然後可以嚮
化千古馭番之法無過于此

請行保甲責成鄉長書

直。敘。有。樸。茂。之。意。

臺疆遼闊已極。臺民不馴。特甚。皆內地作奸犯科。逋逃萃止。豺心鼠性。隨處欲張。邇者北路地方竊劫頻聞。涓涓之勢。漸不可長。苦防汛照管不周。真有顧此遺彼之患。兼班兵自遠新來。良匪情形。路徑要害。皆生疎弗能熟悉。延建汀邵福興福寧兵丁音語不同。不能細偵密訪。如柶鑿方員之不相入。卽有二千協防尚不足供措置。况又有掣回之憂。茫茫千里。星星地。廣。兵。塘汛。勿論移鎮澎湖。必致覆餗。卽駐臺亦難高枕。而

卧也。某夙夜兢兢，惟恐有辜。

朝廷付託之重，負知己培植之恩，實切悚惶，所望二

三賢能文職，振奮精神，以實心行保甲之實政。家家

正其源

戶戶自為清革，使盜賊無自而生，聯絡聲援，守望相

防其流

助如常山之蛇，擊首則尾應，擊尾則首應，使盜賊無

托足之地，雖不設立官兵，亦何不可。但今保甲之法

久已視為具文，虛應故事，莫肯實心料理，而署事各

此輩

官又皆有五日京兆，推諉後人之意，真末如之何也。

團練鄉兵，亦是靖盜一法，憲臺以其亂後强悍成性。

欲仁漸義。摩納之禮讓之中。誠為移風易俗要道。但

今盜賊眾多。不可不先為剔刮。鄙人愚見。以為作賊

洞。悉。民。情。直。截。痛。快。

可以欺官。不可欺民。能避巡兵。不能避鄉里。莫若因

其勢而防範之。就各縣各鄉。僉舉一幹練。勤謹有身

家。顧惜廉恥之人。使為鄉長。就其所轄數鄉家。喻戶

此。法。王。新。建。嘗。行。

曉聯守望相助之心。給之遊兵。以供奔走使令之役

如有一家被盜。則前後左右各家齊出。救援堵截。各

處要口。務必協力擒獲。又設大鄉總一二人。統轄各

鄉長。督率稽查。專其責成。鄉長有生事擾民。縱容奸

匪緝捕不力。救護不齊等弊。大鄉總稽察報查。如有
失察一體同罪。是雖無鄉兵之名。而衆志成城。不啻
有鄉兵之實。今擬臺灣中路設鄉長六名。南路鳳山
設鄉長八名。每縣各立大鄉總一名。統轄之。北路諸
羅設鄉長十二名。立大鄉總二名。分轄之。每鄉長一
名。准給養遊兵四名。大鄉總一名。給外委千把總銜
。剏以榮其身。准養遊兵十名。其遊兵名糧。每月銀一
兩米三斗。就官庄內支給。以爲贍養之資。計三縣遊
兵一百四十四名。每月支銀一百四十四兩米四十

三石二斗三縣鄉長共二十六名。大鄉總四名。應給
養廉。多少。憲臺酌量定奪。伊等工食。既皆仰給于官。亦。可。當。做。添。兵。
則與官兵一例。文武均行約束。調遣無敢不從。凡地
方有竊劫盜賊。就各鄉長跟要限期緝獲。解官究處。
初限不獲。拘遊兵比責。再限不獲。鄉長罰月糧。工食。
戴罪圖功。三限不獲。拘鄉長正身重懲。大鄉總記大
過一次。凡盜賊不能緝獲。至三次者。鄉長責革。大鄉
總追銷外委職牌。以示懲勸。雖月糧似覺傷重。但為
地方之利。自不得顧惜小費。欲行節省。則每名每月。

責成 徑好

銀七錢五錢亦可米三斗不易也無月糧則彼將生

之勢

事擾民以為食非徒無益為害更大且天下亦無枵

體貼人情

腹而為人辦事之理必有資其養廉方可責以清操

大鄉總能幹練辦公勤謹三年無過犯有綏靖地方

實蹟量行擢用以示鼓勵某庸陋無知總為地方念

切極妙廷議既不肯添兵不得已而思以人治人之道

任用得人便可不勞而理不知憲臺以為何如也

雖不得已之計其法實本之管子而文之切近精

實亦似之

一 稟職身共二十六

請權行團練書

是○急○則○治○標○之○美○

凡事有經有權。似當隨時變通。難膠一定。曩讀憲檄。安輯地方事宜。有團練鄉勇。在臺地萬不可行。宜興保甲之法。以鄉約義學。柔和其心性。此誠移風易俗要道。某拳拳服膺。日勸文職。實力作興之矣。但臺民銅敵已深。犯亂成習。一時未能悉化。每有亡命之徒。○可○卷時作死灰復燃之想。邇者林亨、李咸、陳法等倡亂于南。顏煙招誘山際。餘孽鼓煽于北。雖經次第就擒。奸謀潰敗。搜捕山窩。掃清逋藪。不意三林地方復有焚

汛奪舟之變隨遣舟師出洋多方追緝復發陸兵前

往三林協防以壯聲勢乃初九夜竹仔脚地方復有

如○此○情○形○豈○是○修○文○時○

賊殺塘兵之事據守備劉錫報稱風聞奸匪百人旗

幟甚多又諸羅令稟摺稱賊夥在八柴溪小溪洲拜

旗而行搶殺塘汛某一面調遣官兵圍搜堵截勦捕

一面差人密訪則竹仔脚塘人烟聚集左右共數百

家去歲杜君英過此尚須向民假道決非小賊所敢

輕造之區而汛塘左右店舖布疋貨物並無搶奪一

更○可○疑○

件亦無戕傷一人獨殺兵丁可疑殊甚旗幟多人之

說止據本庄如此傳聞詢之他社皆云未見此可知

賊不在遠也果有聚眾拜旗搶殺塘汛則放肆披猖

非同小可此等作何聚集從何而來鄉民豈無知覺

並不先事首報及戕塘兵亦無庄鄰救護即日寅夜

眾寡不敵獨不可尾追踪窺伺去處以報官兵擒

捕此可知人心渙散之故也夫作賊難欺鄉里况嘯

聚殺人是何等事所以不敢首報不敢救護者皆畏

獲矣盜賊暮夜尋仇或如塘兵見殺或以茅舍供賊

人之一炬是以坐視恣行莫懷守望相助之心未經

正。因。無。團。練。之。故。是。以。人。心。渙。散。

何。辭。以。對。

約束團練勢孤心怯之故也。臺地二千餘里。即如去

歲憲議添設營汛尚虞地廣兵單有鞭長不及馬腹

之患乃兵不增而反減營不增而反裁較之未亂之

先單弱更甚可不為寒心乎。今郡治雖有協防兵二

千人足供調遣。然計南路下淡水岡山分去四百有

奇北路下加冬半線又分去四百近者遊擊林秀都

司閩威署把總林時葉張天寶陳雲奇先後帶兵協

防北路又分去六百有奇在郡所存防兵及裁營候

補之眾不過千人。經制各營又多分守汛地存營無

補之眾不過千人。經制各營又多分守汛地存營無

畿府治關係重大未可遂云兵力有餘也某不敏以

實可寒心兵單不不得不然

為當今之時宜急訓練鄉壯聯絡村社以補兵防之

所不周家家戶戶無事皆農有事皆兵使盜賊無容

身之地所謂急則治其標不可須臾緩者也星星之

幾于痛哭

火或致燎原勿謂無傷其禍將長此時添兵不可增

流涕

營不可坐觀其敝後悔何及鄙人不識時務權為擅

專會商道府檄縣暫行聯絡鄉壯之法以固人心早

晚逸賊盡獲地方大定即為撤去仍行鄉約化導設

義學以教誨之不知憲臺以為何如重洋遠隔請示

維艱總為奠安疆圉起見許我罪我均罔敢辭

民怯兵單不得行團練拘牽文義必誤地方非

丈夫所為也辯詰處如見宵匪肺肝殷憂處直欲

痛哭流涕此公忠為國之文不得以詞氣激烈

少之

